

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名 NFC ゆい

事業名 部活がなくても経験できるフットボールの魅力を探したい！

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

令和5年9月9日（土） フットサル教室（@イオン長久手）
対象 年長～小学3年生 13:00～13:45 16名 14:00～14:45 13名
令和6年2月14日（水） フットサル教室（@農村環境改善センター）
対象 ①年中・年長 15:30～16:30 8名 ②小学1年～4年生 17:30～18:30 9名
令和6年2月29日（木） フットサル教室（@農村環境改善センター）
対象 ①年中・年長 16:30～17:30 7名 ②小学1年～4年生 17:30～18:30 8名
令和6年3月14日（木） フットサル教室（@農村環境改善センター）
対象 ①年中・年長 16:30～17:30 6名 ②小学1年～4年生 17:30～18:30 7名
令和6年3月28日（木） フットサル教室（@農村環境改善センター）
対象 ①年中・年長 16:30～17:30 10名 ②小学1年～4年生 17:30～18:30 12名

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ・部活動に入ろうと思っていたが、機会がなく、初心者なのでクラブチームやスクールはついていけそうになく、運動する機会を求めている。家に帰ると、ゲームや youtube ばかりなので体を動かしてよい。本人も楽しいと言っている。（小4 母）
- ・自信がなく、すぐに泣いてしまっていたが、継続することで参加できるようになりうれしい。このような場はあまりないので次年度（令和6年度）以降も継続して利用したい。（年長 母）

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ・仕事の関係でお送り迎えがあれば、参加したいなどの問い合わせが多数あった。
- ・フットサルコートの予約が取りにくいことや、コート代が高いことで参加費が高くなってしまふ。また、長久手市内にコートも少ないこともあり参加が難しい。
- ・市内の室内競技場でフットサルを許可している体育館等がなく、話し合いの末、農村環境改善センターで活動できるよう取り計らっていただいた。安定して活動が難しい。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・事業の内容を理解し、事業を一部継承する団体を確保することができた。
- ・気軽にスポーツに触れる機会を求めていることから、フットサルに限らずスポーツ等の機会を定期敵に提供し、子育て世代の親子が集まり顔の見える関係になる場面をつくりたい。

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



（写真 1 の説明）

イオン長久手にて実施したフットサル教室の様子。



（写真 2 の説明）

農村環境改善センターでの活動の様子（上：幼児クラス 下：小学生クラス）

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名 ういういの会

事業名 ながくての“あるく”らしマップ活用事業

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 「ながくてのあるくらしマップ」を社会資源として活用するために講習会
開催 6/26 参加者：13名
ニーズ把握のためアンケートを実施 8/27 発信
自分が転入したと仮定して、ながくての“あるく”らしマップを使って、情報検索してもらった結果のアンケートをお願いしました。アンケートの依頼文は生成 AI の ChatGPT を活用し作成した。
対象者：ういういの会の LINE 公式アカウントの友達 147名 開封数：118名
アンケートフォームクリック数：32件 9/5 督促発信 回答数：17件
- ② 市民活動の情報発信支援セミナー
「LINE で広がるつながりの輪」 2/11 開催 参加者：15名
- ③ 交流の場づくり支援
「世代を超えゆるやかにつながろう！」長久手市民交流会を 12/9 開催 参加者：42名

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ① アンケートの結果を踏まえ、「ながくての“あるく”らしマップ」のスマホ用の Web 検索の項目の並び順を、市民活動に関心ある人が探すであろう“アクティビティ”を最初に表示されるようになった。
- ② 市民活動団体が「情報発信したい」との声はよく聞くので、そのニーズに応えるため情報発信ツールとして LINE 公式アカウントが有効だと思いセミナーを実施した
- ③ 共生推進課の全面協力もいただき、42名の方の参加をいただきワークショップをしました。交流会としての満足度は高かったが、ワークショップ形式になれない人への配慮がもう一段必要だった。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ① ういういの会の LINE 公式アカウントが 147名の友達を確保していたので、アンケート等に十分活用できると思っていたが、思ったよりクリック数がのびなかった。月200通以上のメッセージ配信は有料になるので、情報発信ツールとしての検討が必要。
- ② 「ぜひ自分達の市民活動団体の情報発信に活用したい」との声は聞かれたので、実戦に向けてフォローしますと伝えましたが、実際に担当者を確認して、実施しようという動きにはならなかった。
- ③ 地域共生推進課の説明はわかりやすかったので「ながくての“あるく”らしマップ」の概要は参加者には理解いただけた。マップの周知には役立った。しかし、他のシステムの部分活用なので、市民活動の情報を探すツールとしては検討が必要かと思われる

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

ういういの会の定期的な活動を継続して、その活動の中から、市民活動団体が目指す未来の姿を協働で描いてみたい。そこから生まれる”実践活動”に必要な経営資源や手段を明確にして、中間支援団体としての情報発信につなげたい。
具体的には、AI の活用、各ニーズに合ったワークショップの開催など

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

① 「ながくてのあるくらしまっぷ」を社会資源として活用するために講習会



② 市民活動の情報発信支援セミナー「LINEで広がるつながりの輪」



③ 交流の場づくり支援「世代を超えゆるやかにつながろう！」



ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名 パラジウム

事業名 ふくしのイラストづくり事業

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 長久手市福祉部、子ども部、放課後等デイサービスポカラポット、生活介護きらり、デイサービスるんるんを取材。福祉の支援体制と福祉サービスを受ける多様な人々を尋ねた。
- ② グラデーション画と缶バッジ制作のワークショップを、長久手市福祉まつり、楓まつり、名古屋学芸大学映像メディア学科ゼミ展にて3回実施。長久手市民を中心に、グラデーション画は合計144枚、缶バッジは300個以上を制作。多くの方々に参加いただいた。
- ③ ふくしのイラストとして、ラッピングや背景模様としてまとめた冊子50部、コミュニケーションツールとして表情を描いたカード50部、認知を広めるTシャツ14枚を制作。

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ① 福祉サービスが、利用する人々にしか認知されていない現状から、より多くの人々が知ること、サービスを必要とする人々の理解にもつながり、多様性を認め合えるのではないかと感じた。福祉を限定されたものにせず、POPな福祉を目指す目的が明確となった。
- ② 絵の具を手で塗ってグラデーションを描くワークショップは、さまざまな制約を解き、いろいろな色が混ざることによって多様性を認め合う象徴的な行為であった。さらにそこで描いたグラデーション画を次回のワークショップで缶バッジにすることで、グラデーションにより人々がつながっていくことが実感できた。多くの参加者が喜んで制作していた。
- ③ グラデーション画は、ながくて福祉ガイドの表紙、第3回まざって長久手フェスタのチラシとリニモテラス公益施設での展示に採用された。市の発行物に採用されたことで、長久手市民へ向けてPOPな福祉に貢献できた。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

POP な福祉を目指すため、地域の中に溶け込むことが重要であると実感した。人々の意識を変えるのではなく、人々の意識に浸透していく工夫を要すると気付いた。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

POP な福祉を人々の意識へ浸透させていくための、プロモーションに取り組みたい。社会課題や地域課題に対しメディアがどのような役割を果たしていくかを研究し、長久手市から福祉を「Popular」な存在にしていきたい。

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



長久手市、放課後等デイサービス、デイサービスの取材の様子。



長久手市福祉まつり、名古屋学芸大学映像メディア学科ゼミ展、長久手市楓まつりの様子。



ふくしのイラストを使用した、グラデーションパターン、カード、Tシャツ。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名「みんなちフォーラム実行委員会」

事業名みんなちフォーラム 2023

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 「第5回みんなちフォーラム」 令和5年7月23日（日）@長久手市中央図書館
～大地震!!どうする長久手!!～自分の、家族の命を守るため 参加者 約70名
基調講演に NPO 法人レスキューストックヤードの栗田暢之代表をお招きし、実践から見えた長久手の弱点を勉強。また三ヶ峯の「クリザンテームヒルズ長久手」前自治会長西本寛氏に、自治会立ち上げまでの苦労と防災について語って貰いワークショップへと移った。
- ② 「第6回みんなちフォーラム」 令和5年11月12日（日）@長久手市中央図書館
～長久手って子育てしやすい、ってホントかな?～ 参加者 約40名
基調講演に NPO 法人こどもフォーム代表の原京子さんをお迎えし、大人は子どもをどう考えるべきか、についてお話頂き、その後参加者で子どもに関する様々な面を話合いました。また市内でベビーマッサージインストラクターとして活躍されている仲田由加さんには自分の仕事と接する若いママさんの事情から見てきたこととお話頂きました。
- ③ 「みんなちフォーラムレポート 第2号」の発刊。2023年（令和5年）に開催した3回の「みんなちフォーラム」の意義を参加者、非参加者の市民、議員、行政のみなさんに確認していただくため、600部を3月に発行（電子版も）。市内公共施設に置いていただくほか、実行委員も手撒きで配布しています。（実物を添付）

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ・フォーラム本来の役割、「みんなち条例」の理念の周知（市民主体のまちづくり）は引き続き実践できていると考えています。市民・議員・行政の皆さんにそれぞれのテーマで考える機会を提供出来たと考えます。また多くの専門家とのネットワーク作りも進みました。
- ・第5回のフォーラムではその年の9月に4大学連携でリニモテラスにおいて開催した防災フェスの勉強会も兼ね、多くの大学生が参加、本番への知見の積み重ねに役立ちました。
(たつせがある課)
- ・市の企画政策課とは、市の行政情報、行事情報などの共有が連携出来、またフォーラム当日の機材の貸与、運営の補助などで助けていただき大変助かりました。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ・一般市民に広く周知することは Facebook ページや「リポート」を配布しても、なかなか難しく、一方で参加市民の代謝を促すことは課題ではありますが、少しずつ前進している手応えはあります。会場的にも 70 名ほどが限度で、参加される市民をどういう位置づけにするか、悩ましいところです。
- ・本フォーラムはマネタイズし辛い性格があり、漸減する補助金は負担の割には使いづらい面があります。次回（5月26日開催）では会場に募金箱を置いてみようかと計画しています。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・第7回は5月26日（日）図書館で開催します。（3年目の補助金は申請を見送ります）
みんまち条例について、市長が代わったこと、5年経過し1回目の検証も終わったことから、この条例をもう一度考えてみようとする内容を計画しています。
- ・実行委員が固定化しているので何とか若い方の加入を実現させたい。
- ・実行委員の会費だけでの運営も限度があるため、募金箱などの工夫をしてきたい。
- ・たとえば「能登半島地震」対応に出向いた尾三消防や市の職員などの声を聞き、市民へ防災啓発に役立つ「ミニフォーラム」みたいなものは出来ないか、模索してみたい。

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



左上：第5回の基調講演者、レスキューストックヤード栗田代表とクリザンチームヒルズ長久手西本氏
右上：第5回 WS 左下 Facebook「みんなまちフォーラム」へのQRコード 右下：第6回フォーラム

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名 愛知淑徳大学まちづくり研究会

事業名 地域をつなぐコモンズづくり

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 第一回ワークショップ：丁子田地区の住民を対象として、当地区でやりたいことや困っていることについて意見を出していただき、それを実現できそうな場所を検討していただいた。参加者は12名。
- ② 第二回ワークショップ：第一回を基に学生達が検討した、2箇所のコモンズの案について意見を募り、案の最終決定を行った。参加者は11名。
- ③ 施工：決定した2箇所のコモンズの施工を行った。
 - ・丁子田集会所：ベンチの作成、縁側の作成、掲示板のマグネットシートへの張替え及びアクリル板の取り付け、内装の一部変更。
 - ・中西さん宅：机の作成、椅子の作成、ベンチの作成、カウンターの作成、内装の変更。

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ① 第一回ワークショップ：住民の方々の「誰かと話をする場所がほしい」「学生と交流をしたい」などの想いを知ることができ、コモンズづくりに活かすことができた。また、市と協働したことで多くの人が参加し、貴重な意見を沢山いただくことができた。参加者の方々はワークショップに積極的に参加してくださり、活気あふれるワークショップになった。
- ② 第二回ワークショップ：第一回よりも具体的に住民の方々の望むコモンズを知ることができ、最終的な案の決定に至ることができた。住民の方々は、楽しんで話し合いをしており、また、コモンズができることを心待ちにしていた。
- ③ 施工：実際に皆の居場所となるコモンズをつくることができた。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

①② ワークショップ：参加して下さった方のほとんどは地域活動に積極的な人であり、消極的な人の意見を聴くことができなかった。また、地域でつながりをもたない人が一定数いることが課題に感じた。

③ 施工：コモンズの保全をする必要があると思った。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

①② ワークショップ：出来上がったコモンズの運営に関わることで、利用者を増やしていけるようにしたい。最終的には、地域全体や他地域ともつながりができることが目標である。

③ 施工：定期的にコモンズの様子を見に行ったり、塗料の塗りなおし作業を行ったりすることで、より長くコモンズを使い続けてもらえるようにしたい。

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



（写真1の説明）左はワークショップをしている様子。右はアイスブレイクをしている様子。



（写真2の説明）左は集会所の施工の様子。右は中西さん宅の掃除の様子。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名 名古屋外国語大学プレイスメイキング研究会

事業名 パブリックスペースの利活用を通じたネットワークづくり

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

① 2023年10月21日(土) 草刈りイベント

参加人数：親子6組22名、運営17名（計39名）

② 2023年10月28日(土) みんなでつくる「おそとで」映画上映会

参加人数：親子11組49名、運営27名（計76名）

事業内容：長久手南部浄化センター芝生広場の草刈りを実施した。草刈りをした広場にて映画「マダガスカル」を上映。会場作りから参加者に協力をしてもらい、主催者からの一方的なイベントではなく、参加者みんなでイベントを作り上げた。

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

草刈りでは、休憩の時間に交流を深めるアイスブレイクを行った。上映会では、上映開始前に来ることができる参加者に会場の準備の協力を呼び掛け、また上映映画に関する遊び（クバーラ）を実施し、主催者と参加者同士の交流を深めることができた。また草刈り参加者に関して、自分たちで草を刈った場所で上映会を準備し、楽しむことで広場への愛着を育むことができた。担当課の協働のおかげで様々な団体や事業者を巻き込み、事業を遂行でき、大変よかった。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

イベント翌日にアンケートを参加者に送信し、実施したが十分に回答を回収できなかったため、次回似たようなイベント開催時にはその場で回答してもらえようようにしたい。

マダガスカル、上映会、草刈り、イベント、参加者、協力、交流、愛着、課題、アンケート、回収、次回、開催、回答、場、してもらえようようにしたい。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

アンケートより、今後も今回のような親子同士が交流できる楽しいイベントを開催してほしいという声が挙げられた。今回事業を協働したことで縁を繋ぐことができた多団体との継続的な関係性を保ちつつ、団体内で学生が入れ替わるという当団体の特徴を活かし、新しいアイデアや企画に挑戦していきたい。

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



10月21日 草刈りイベントの様子



写真

10月28日 みんなでつくる「おそとで」映画上映会の様子